

総合商社三菱商事

清華大学学生代表

見学日時：2017年6月5日（月）16:00-19:00

見学場所：三菱商事株式会社

見学概要

三菱商事は日本国内及び海外の約90ヵ国に200以上の拠点と1200社以上の提携パートナーを持つ日本最大の総合商社である。地球環境・インフラ事業、新産業金融事業、エネルギー事業、金属、機械、化学品、生活産業の7つのグループに商業サービス部門を組み入れ、絶えず事業を拡大し、提携パートナーとともに現地での開発、生産、製造等を行っている。将来的に三菱商事は公明正大のモットーに則り、より良い社会の構築を己の責務とし、全力でさらなる成長の実現を目指していく。

三菱商事の創業以来の社是である『三綱領』は、所期奉公（事業を通じ、物心共に豊かな社会の実現に努力すると同時に、かけがえのない地球環境の維持にも貢献する）、処事光明（公明正大で品格のある行動を旨とし、活動の公開性、透明性を堅持する）、立業貿易（全世界的、宇宙的視野に立脚した事業展開を図る）というものである。

見学概況

2017年6月5日午後、中華人民共和国駐日本国大使館への訪問を終えた第20回中国大学生訪日団一行は、三菱商事株式会社を訪れ、同社の顧問である松井氏、調査部の小山氏らスタッフからの熱烈な歓迎を受けた。

初めに松井氏から歓迎の挨拶があった。その中で松井氏は、私たちの訪問に中国での勤務当時を思い起こしたと述べられた。松井氏はかつて中国で4年間勤務した経験があり、その4年間を通じて中国への見方が変わり、中国の発展の奇跡について知ることができたとのことで、松井氏は文化交流の重要性を強調した上で、私たちが若いうちに日本に来て交流できることへの羨ましさを述べられた。そして挨拶の最後には松井氏から、私たちがこうした交流・学習の機会を活用し、今回の訪日期間において多くの収穫が得られることを願っているとの言葉を頂いた。

松井氏の挨拶の後、私たちは三菱商事株式会社の紹介ビデオ「The Power to Create the “Next”」を観賞した。この紹介ビデオでは主に三菱商事株式会社の世界的な事業展開の状況と企業文化が紹介されており、同社の事業を可視化することで同社についてより良く知ることができ、また皆の三菱商事への興味を引いていた。

訪日団の学生に三菱商事についてより良く知ってもらうため、同社調査部の小山氏からは同社の世界における位置づけ、同社の発展の歴史、投資対象、中国における事業及び社会貢献活動についてさらに詳しい紹介があった。これらの紹介を通じて私たちは、三菱商事が多くの業界をカバーする総合的企業で、自社の利益のみならず社会利益を重視し、積極的に社会貢献に取り組んでいることを知った。小山氏からの紹介の後、学生らは同社の福利、事業、企業文化や方針などについて松井氏に質問し、多くの回答が得られた。



ここで指摘すべきは、日本政府の「一带一路」への対応が不明確である状況において、三菱商事は「一带一路」の将来を見通し、積極的に参与し貢献をしている。こうした点こそが、三菱商事が世界で活躍できる理由なのかもしれない。

以上の会社紹介の後、私たちは三菱商事のスタッフと交流を図った。彼らは私たちのために美味しい食事や飲み



物を準備してくれ、皆は楽しい雰囲気の中交流することで、同社についてさらに知識を得ることができた。

そして懇親会が終わり、雨が降る中、三菱商事の皆さんとお別れをした。

なぜですか？

問：三菱グループと中国のエネルギー業界との密接な関係について知っていますか？

答：三菱グループは中国のエネルギー市場には直接参入していないものの、中国のエネルギー業界における三大国営企業である中国石油天然気集团公司、中国海洋石油总公司、中国石油化工股份有限公司と密接な交流及び提携を行っている。三菱グループのトップもまた、福島での原発事故により電力が不足した際、中国の三大国営エネルギー企業が日本に大きなサポートを提供し、被災地におけるエネルギー危機が乗り越えられた。最近の中国でのメタンハイドレートの採掘成功について、三菱グループとしても中国との技術協力を展開し、エネルギーにおける新時代を切り拓いていきたいと述べている。

問：三菱グループは中国における水質汚染対策産業の発展の見通しについてどのように見えていますか？

答：中国における水質汚染対策業界は発足間もなく、同市場はとて大きく、三菱グループとしても自身の汚染対策技術に自信を持っているが、企業は利益を追求しなければならず、水質汚染対策における投資額は非常に大きく、投資回収の期間が長い。そのため、三菱としては中国国内または世界において新たな提携パートナーを模索し、共同で新たな事業展開をしていくことを望んでいる。

問：横浜の三菱みなとみらい技術館について教えてください。

答：横浜にある三菱みなとみらい技術館は、三菱が環境、宇宙、海洋、建築、エネルギー等人の生活に関する技術の紹介をメインとした最先端の科学技術展示館である。ここではロケットエンジンの実物、原子炉、MRJ、人工衛星等の各種模型があり、日本の最先端技術の現状を知ることができる。また同時に、館内では沢山の楽しいゲームを体験することができ、見学に来る子どもたちは遊びを通じて知識を得、さらに興味を呼び起こすことができる。

感想

この日の午後私たち訪日団一行は三菱商事を訪れ、同社のスタッフによる紹介を聞いた後、懇親会に参加をした。三菱商事は日本国内及び海外の約90カ国に200以上の拠点を持つ日本最大の総合商社で、事業分野は地球環境・インフラ事業、新産業金融事業、エネルギー事業、金属、機械、化学品、生活産業等各方面をカバーしている。今回三菱商事を見学できたことは非常に幸運であった。

三菱商事の企業理念は印象深いものであった。その企業理念である三綱領は、所期奉公、処事光明、立業貿易で、企業としての位置付けはとて高く、「全世界的、宇宙的視野に立脚した事業展開を図る」というものである。私はこれこそ中国の企業が学ぶべき点であると思った。三菱商事は多くの重要分野において非常に大きな業績をあげており、それらの分野における進歩をもたらすなど、世界の工業、経済等の発展に大きな貢献をしている。三菱商事は1918年に創業し、間もなく100年を迎える。この100年においては、戦後の解散等の紆余曲折を経験したが、三菱は三綱領の理念に則り、努力を続け、最終的に現在の規模までに成長した。こうした精神は私たちが学ぶべきものだと思う。中国において創業から100年以上の歴史を持つ企業はとて少ないが、日本では三菱商事のような100年以上の歴史を持つ企業はとて多い。事業をするには、高い位置付けと着実な姿勢により万難を排してこそ最終的に大きな業績を実現することができるのである。

私の専攻はエネルギーと動力であるため、三菱商事のエネルギー分野にはとて興味があり、質疑応答の機会に三菱商事と中国企業との提携やメタンハイドレート関連の問題について質問をし、満足できる回答が得られた。三菱商事のトップもまた中国企業との提携を強化し、エネルギー事業の発展を推進していくという意向を示し、さらに東日本大震災時の中国のエネルギー企業によるサポートへの感謝を述べられた。私は、世界各国の発展にとて非常に重要なエネルギー分野においては、提携を強化しウインウインを目指すべきであると思う。三菱商事は中国が提唱する「一帯一路」構想へも積極的に参与しており、今後も中国企業と素晴らしい提携関係を構築していくと確信している。